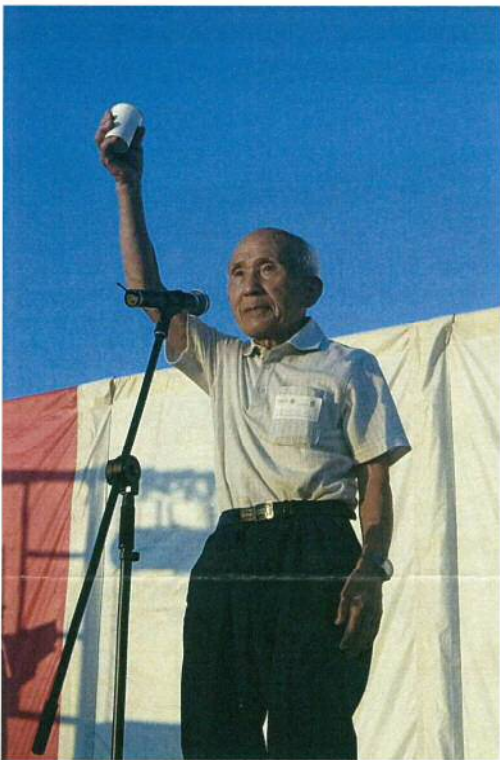


特別号外

読売新聞

祝2012鞍陵会総会・鞍陵祭

結  
時を結ぶ、人を結ぶ、この瞬間……



乾杯の音頭をとる最年長の吉柳昌作さん

(中17)



「乾杯!」。「結」を確かめあった同窓生

2012年鞍陵祭が4日、直方市山部の鞍手高校で開催された。福岡県内はもとより、全国から11000人を超す卒業生や恩師が出席し、母校のグラウンドで夏の夕涼みを楽しみながら、年月を経ても変わらぬ絆を確かめ合い、思い出話に花を咲かせた。

今回のテーマは「結(ゆい)時を結ぶ、人を結ぶ、この瞬間」。旧制鞍手中学と鞍手高校の卒業生が学年・世代を越えた結びつきをさらに深め、創立94年を迎えた母校の新しい歴史の発展の礎を築こうという願いが込められている。

本年は40回目の節目の鞍陵祭。その記念すべき鞍陵祭の当番幹事を高校36回生・61回生が務めた。母校のグラウンドで開催するまれな形式で、人手が多く必要なこともあり、全国から200人余りがスタッフとして駆けつけた。また、例年、幹事学年を25学年下の後輩が手伝いをするという伝統も代々、受け継がれており、時には親子で幹事を務める卒業生もいる。

会は午後6時から総会が開催され、決算・予算案や年間行事予定の報告があった。引き続き行われた懇親会では、坂井公明会長のあいさつのおと、花岡俊彦鞍手高校校長、向野敏昭直方市長、有吉哲信宮若市長ら来賓があいさつ、記念すべき百周年に向けての事業の第一歩を踏み出すことが高らかに宣言された。

懇親の席では、宮若レインボーカンパニーや地元大學生による炭坑節創作ダンスのパフォーマンス、ギリヴァンツ北九州の紹介、豪華景品の抽選会など、趣向を凝らした企画が次々と行われ、会場は大いに盛り上がった。

料理は地元食材をふんだんに使い、ふるさと筑豊を思い出させる弁当が提供された。お祭り気分を盛り上げる屋台では、直方のB級グルメ焼きスパやカレー焼きに多くの来場者が舌鼓を打っていた。とくに女性に好評だったのが、地域になじみの菓子店のスイーツで、シュークリームやコーヒードーナツ、ケーキなどはどれも、短時間で品切れする状況だった。

幹事お勤めのこだわりグッズも豊富。会の後でも使用できるように準備したテーマ・校章入りのクリアファイルバッグ、来場者全員への配布用(緑色)と広告協賛用(桃色)の2種の扇子、テーマをあしらったスクールカラーのグリーンが基調のTシャツなどなど。テーマの「結」の文字は、36回生が高校生時代にお世話になった書道の恩師(田尻智秀先生)に書いていただくといいというこだわりよう。さらに閉会時には、すべての人に校章入りの直方名物が配られるという念の入れかたで、幹事一同の「結」を深めようという気持ちと同窓生へのもてなしの思いが強く伝わってくる、真夏の直方の「熱い」夜となった。





親子で幹事を務める藤谷さん母娘と高山さん母娘



運営スタッフとして全国から集まった当番幹事の高校 36 回・61 回生



同窓生が続々母校に集結



夕暮れが近づくグラウンドで思い出の花が咲き誇る



祝宴に花を添える多彩な催し



母校のグラウンドに帰って来た同窓生



資料・扇子・Tシャツなど

読売新聞の新しいデジタルサービス **読売プレミアム** スマホ・パソコンで、読売新聞がお読みいただけます。

読売新聞購読料に加えて 月額 **157** 円 (税込み)

お申し込みはコチラ <http://yomipre.jp>

読売プレミアム 検索